

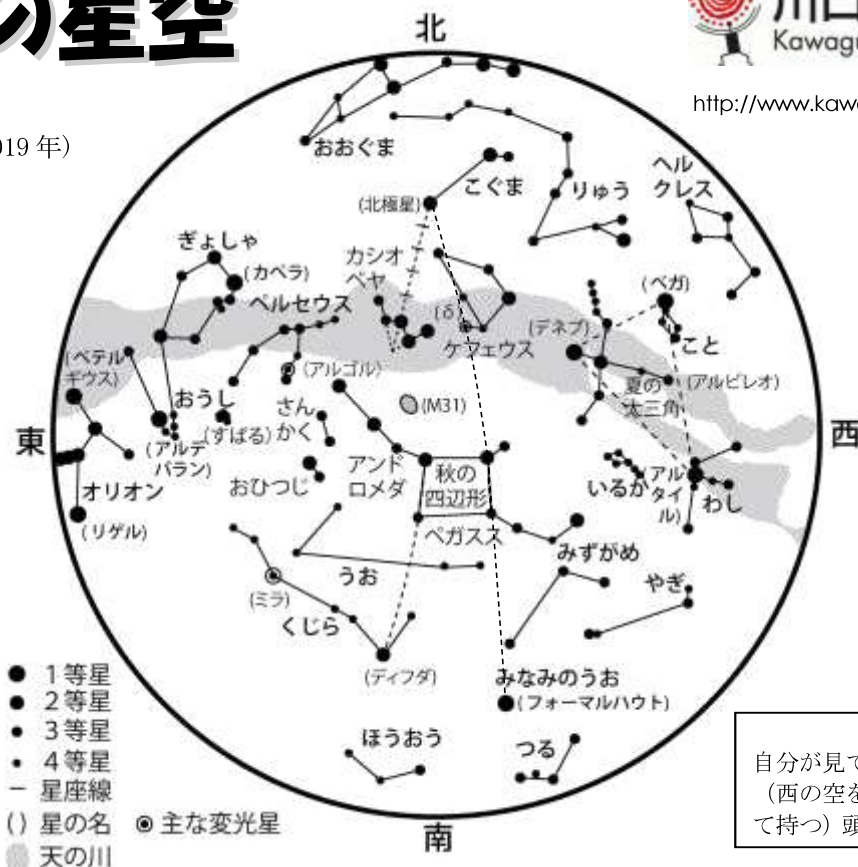
# 今月の星空



11月 (2019年)

上旬 21 時頃

下旬 20 時頃



月 齢 ● 上弦 4 日、○ 満月 12 日、◐ 下弦 20 日、● 新月 27 日

## 惑星情報

水星 明け方 東 (てんびん座 0→-1 等級) ※下旬以降

金星 夕方 南西 (へびつかい→いて座 -4 等級) ※中旬以降

火星 明け方 東→南東(おとめ座 2 等級)

木星 夕方 南西 (へびつかい→いて座 -2 等級)

土星 夜のはじめ頃 南西(いて座 1 等級)

## ★秋の星座が見ごろ

夏から秋にかけて、空の高い所にあった夏の大きな三角が西に傾き、秋の星座が南の空を中心に広く見られるようになりました。秋の星座の中では、1 等星はフォーマルハウト (みなみのうお座) のみですが、街中でも見つけられる 2 等星をもつ主な星座 (カッコ内は 2 等星の数) は、ペガサス座 (3)、アンドロメダ座 (3)、カシオペヤ座 (3)、ペルセウス座 (2)、くじら座 (1) など多くあります。秋の四辺形を目印にたどってみましょう。東の空からは、おうし座のアルデバランやぎよしゃ座のカペラ、オリオン座など、にぎやかな冬の星座の星たちも昇ってきました。

## ★明るさが変わるふしぎな星、くじら座の「ミラ」

秋の四辺形の東側の二つの星をつなぎ、南へ伸ばすとくじら座の 2 等星ディフダ (別名デネブカイトス) が見つけられます。そこから東へたどると、「ふしぎなもの」という意味のミラがあります。この星は、約 11 か月 (約 332 日) の周期で、明るさが 2 等から 10 等まで変化する変光星です (注)。最も明るくなる極大を迎えるのは 11 月半ば頃の予想です。今年は、この極大とくじら座が見やすい時期が重なり、観測のチャンスです。(注) 極大光度や変光周期にはばらつきがあります。

ワンポイント～変光星の種類と主な変光星～

「脈動変光星」…星自身が収縮・膨張を繰り返すことで明るさが周期的に変化する。

「食変光星」…連星を成す二つの恒星が互いを回り、星を隠しあうことで、見かけの明るさが変化する。

名称	タイプ	特徴など
ミラ (くじら座)	脈動変光星	1596 年にファブリチウスにより初めて発見された変光星。はじめは一時的に増光する新星と考えられていた。変光星と気づいたのは 13 年後の 1609 年のこと。
ケフェウス座 $\delta$ <small>でるた</small>	脈動変光星 (セファイド型)	この型の変光星の距離は、見かけの明るさと変光周期から求まる。アンドロメダ銀河 (M31) の距離もこの型の変光星を見つけたことで求まった。
アルゴル (ペルセウス座)	食変光星	代表的な食変光星。約 3 日の周期で、2.1 等から 3.4 等まで明るさが規則正しく変化する。1667 年にアルゴルが変光星であることがわかった。